

海外進出企業 interview

株式会社菅原工業

～インドネシアでのリサイクルアスファルト普及に取り組む～

今回の「Global Report」では、宮城県で道路工事業を展開する「株式会社菅原工業」（本社：宮城県気仙沼市）へのインタビュー記事をお届けします。

当社は1965年の創業以来、「このまちを、つくる」という経営理念のもと、地域の人々の「当たり前」を守る社会インフラの整備に携わってきました。

近年は、リサイクルアスファルトを活用した道路舗装技術を用いて、インドネシアでの事業展開を進めており、2021年には、海外で先導的に活躍している建設関連企業を表彰する「第4回 JAPANコンストラクション国際賞」国土交通大臣賞を受賞しています。

Q1

事業内容について教えてください

当社は、地元である宮城県気仙沼市を中心に、道路や橋梁、港湾といった社会インフラの建設・整備を行う総合建設業者です。建設業のプロフェッショナルとして災害に強いまちづくりを推進し、人々が快適で、安心して暮らせる環境づくりに日々取り組んでいます。

また、気仙沼市内の中学生を対象に建設業への理解を深めるための特別授業や、就職活動を行う大学生向けの企業マッチングイベントを行う等、気仙沼地域の振興に積極的に取り組んでいます。



(株)菅原工業 代表取締役
菅原 渉 氏

Q2

海外進出のきっかけについて教えてください

海外での事業展開を考えはじめたきっかけは、2011年の東日本大震災です。震災後、当社では道路復旧のためのがれき撤去等、様々な復興事業に携わってきました。スピーディな復興に向け、人手を増やして工事に取組みたいと考えていましたが、地元ではどうしても復興の担い手となる人材が不足しており、歯痒い思いをしていました。そんな時、目を向けたのが日本の2倍以上の人口を持つインドネシアです。

日本でも有数の水産都市である気仙沼では、漁業や水産加工業に従事するインドネシア人の技能実習生が活躍しており、当社としても、彼らの力を借りることで、この難局を打開できるのではないかと考え、2014年よりインドネシア人技能実習生の受入を開始しました。実習生は3～5年で帰国し、受入企業ともその時点で関係が終了するのが一般的ですが、私には、実習生が帰国した後も現地で働ける場所を提供したいという思いがありました。

また、インドネシアは日本と違ってこれから人口増加が見込まれる若い国です。現地の旺盛な建設需要を取込むことができれば、当社にとっても大きなビジネスチャンスになるのではないかと考え、インドネシアでの事業展開にチャレンジすることにしました。

Q3

海外事業の内容について教えてください

A

2017年にインドネシア現地法人PT. SUGAWARA KOGYO INDONESIAを設立し、インドネシア国内でのリサイクルアスファルト製造・販売を主力事業として取り組んでいます。2022年からは、現地企業と共同して道路舗装工事を受注できる体制も整えることができました。

インドネシアでの事業展開に向けて、現地の道路工事の状況について調査を行った際に、現地ではリサイクルアスファルトの利用がほとんど進んでいないということに気が付きました。日本の道路補修工事においては、劣化したアスファルトを剥がして再度アスファルトに生成し、活用することが一般的です。

しかし、インドネシアではそもそもリサイクルアスファルトを扱う事業者は数える程度しかおらず、道路工事における普及率も数%ほど。道路の補修を行う際には、劣化した道路の上に新たなアスファルトを重ねていく「オーバーレイ工法」が用いられており、補修の度に道路がどんどん高くなってしまおうといった状況でした。

当社の技術を活用し、インドネシアが抱えるこうした「道路」に関する課題を解決することで、インドネシア発展への貢献と、当社のビジネス拡大の両方が達成できると考えています。



Q4

海外事業を行う上で、ご苦労されたことはありますか

A

苦労した点は大きく2点あります。一つは現地政府との交渉です。道路工事でリサイクルアスファルトの利用を促進させるためには、どうしても公共工事を発注する現地の自治体や政府の理解を得る必要があります。しかし、過去に他社が導入したリサイクルアスファルトが高価格であり、金額に見合う品質ではなかったことから、当初は現地のリサイクルアスファルトに対する心象は悪く、決定権を持つキーマンとの面談の機会を持つことがなかなかできませんでした。



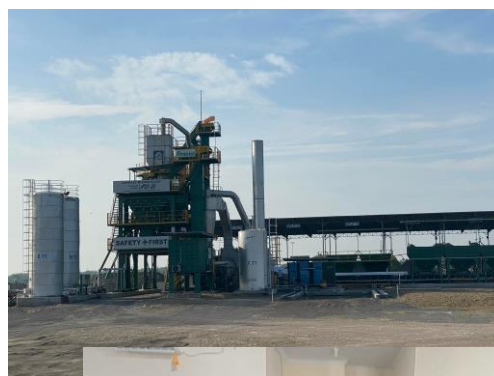
そこで当社では、インドネシア現地政府機関向けのセミナーや、工業団地にリサイクルアスファルトを無料で舗装する等の取り組みを実施し、地道にリサイクルアスファルトの優位性を訴え続けました。

その結果、2019年に当社のリサイクルアスファルトがインドネシア全土で利用できる品質規格を取得することができ、現在のビジネスにつながっています。

もう1点が、資金調達についてです。リサイクルアスファルトの生成には、劣化したアスファルト廃棄物を再生するリサイクルプラントの建設が必要です。

2017年には、当社の出資金等を用いて1号プラントを建設しましたが、現地での今後の事業展開を考えると、2号プラントの建設は急務でした。ただ、海外での資金調達経験もなく、どうすればいいかと悩んでいた際に、地元でお付き合いのあった七十七銀行気仙沼支店から資金調達のご提案をいただいたのです。財務のバランスや、今後のインドネシアでの事業展開への影響等も加味し、国際協力銀行（JBIC）との協調融資という形を取った方がよいとのアドバイスを受けました。

2021年12月、2号プラント建設に関する資金として資金調達を実施し、2022年5月には2号プラントを稼働することができました。



Q5

今後の展望について教えてください

A

インドネシアでの事業展開として、既存事業に全力で取り組むことはもちろんのこと、リサイクルアスファルトの更なる普及を推進するために、現地の道路舗装管理の高度化や日本式の道路舗装技術の導入に向け、引き続き現地政府や自治体に働きかけていきたいと考えています。また、今年からは現地の道路舗装工事を受注できるようになり、インドネシア人技能実習生が日本で学んだ技術を現地でも活かせる体制が整いました。日本で学んだ技術で母国の発展に貢献する、こうした人材の還流を含めた良い循環を、これからどんどん生み出せるようにしていきたいですね。

会社概要

株式会社菅原工業

本 社 / 宮城県気仙沼市赤岩迎132

設 立 / 1980年7月7日

資本金 / 2,000万円



【お問合せ先】

七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室
TEL.022-211-9880

【Global Letter NEXT ホームページ】

その他の記事はこちらからご覧ください。

https://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter_next/



本紙記載の内容につきましては、当行が信頼できると考える情報に基づき作成しておりますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談いただくようお願い申し上げます。